



国民生活センターによるところ、近年、トコジラミに関する相談が全国の消費生活センターに寄せられているという。賃貸マンションに入居する関東地方の20代女性は、かゆみで病院を受診したところトコジラミが原因と判明。専門業者に駆除を依頼したもの、費用を巡って大家とトラブルになったとして、今年7月、地元の消費生活センターに訴え出た。近畿地方に住む

一時は国内でみられなくなつたトコジラミ(ナンキンムシ)の被害が、じわりと広がつてゐる。寝具の隙間などに潜み、刺されると強いかゆみを引き起こす。一度繁殖すると駆除が難しいため、外部から持ち込まないよう気に付けたい。

(斎藤保)

狭い場所に潜伏 人やペットの血吸う



トコジラミの雄(左)と雌。体長は5~8ミリで、吸血すると丸く膨らむ(日本ペストコントロール協会提供)

東京都や横浜市などの自治体も、パンフレットを作成するなどして注意を促している。都などによると、トコジラミの成虫は体長5~8ミリで、羽はなく、平らな体つきをしている。昼間はマットレスや家具の隙間、畳の裏側などの狭く暗い場所に潜伏。夜

相談は2000年代に入って増えているという。09年度に全国から寄せられた相談は130件だったが、15年度には617件に急増し、その後も高止まりしている。

本ペストコントロール協会(東京)によると、こうした相談は2000年代に入って増えているという。09年度に全国から寄せられた相談は130件だったが、15年度には617件に急増し、その後も高止まりしている。

害虫駆除会社が加盟する日本ペストコントロール協会(東京)によると、こうした相談は2000年代に入って増えているという。09年度に全国から寄せられた相談は130件だったが、15年度には617件に急増し、その後も高止まりしている。

繁殖すると駆除困難 ▶▶ 外部から持ち込まない

間に活動し、人やペットの肌から血を吸つて丸く膨らみ、黒い粪をする。暖房が利いた屋内では1年中卵を産んで繁殖し、移動・拡散するといふ。

戦後間もない頃までは国内に広くまん延していたが、衛生環境が整い、殺虫剤が普及した1964年の東京オリンピックの頃には減少し、70年代にはほとんどなくなった。

しかし、海外で殺虫剤に耐性を持つた種類が登場。同協会技術委員の元木貢さんは「海外からの旅行者の荷物や衣服などに潜んだトコジラミやその卵が、国内に持ち込まれたとみられる」と指摘する。

トコジラミは一度刺された程度ではかゆみなどの症状は出にくく、繰り返し刺されることでアレルギー反応として発症する。このため存在に気づくのが遅れやすい。また一般的な殺虫剤に対し耐性を持ち、様々な隙間に潜んでいるため、駆除が難しいやつかいな存在だ。繁殖力が強く、吸血しなくとも1年ほど生きるものもあるという。

増やさないためには、外から持ち込まず、早期発見する

トコジラミ 被害再び増

ことが重要となる。成虫は肉眼でも発見できる大きさで、生息している場合は、黒いフンや脱皮の跡が手がかりになる。ホテルや旅館に宿泊する40代女性は昨年、九州に旅行した際にトコジラミに刺されただといい、宿泊したホテルに治療代を払つてほしいと相談してきた。

害虫駆除会社が加盟する日本ペストコントロール協会(東京)によると、こうした相談は2000年代に入って増えているという。09年度に全国から寄せられた相談は130件だったが、15年度には617件に急増し、その後も高止まりしている。

東京都や横浜市などの自治体も、パンフレットを作成するなどして注意を促している。都などによると、トコジラミの成虫は体長5~8ミリで、羽はなく、平らな体つきをしている。昼間はマットレスや家具の隙間、畳の裏側などの狭く暗い場所に潜伏。夜

間には活動し、人やペットの肌から血を吸つて丸く膨らみ、黒い粪をする。暖房が利いた屋内では1年中卵を産んで繁殖し、移動・拡散するといふ。

戦後間もない頃までは国内に広くまん延していたが、衛生環境が整い、殺虫剤が普及した1964年の東京オリンピックの頃には減少し、70年代にはほとんどなくなった。

しかし、海外で殺虫剤に耐性を持つた種類が登場。同協会技術委員の元木貢さんは「海外からの旅行者の荷物や衣服などに潜んだトコジラミやその卵が、国内に持ち込まれたとみられる」と指摘する。

トコジラミは一度刺された程度ではかゆみなどの症状は出にくく、繰り返し刺されることでアレルギー反応として発症する。このため存在に気づくのが遅れやすい。また一般的な殺虫剤に対し耐性を持ち、様々な隙間に潜んでいるため、駆除が難しいやつかいな存在だ。繁殖力が強く、吸血しなくとも1年ほど生きるものもあるという。

増やさないためには、外から持ち込まず、早期発見する